

## 56. 記念講演会「はやぶさ2の挑戦 宇宙探査への挑戦」

はやぶさ2拡張ミッションチームリーダー 津田雄一

### 子どもたちへのメッセージ

地球から約3億km離れた小惑星「リュウグウ」の石や砂粒を地球に持ち帰った、世界でもほぼ前例のない、小惑星探査機「はやぶさ2」のプロジェクト責任者を務めました。

はやぶさ2は2014年12月にH2Aロケットで打ち上げられ、2018年に小惑星リュウグウに到着。2019年には2回にわたり石や砂を採取し、2020年12月、試料約5.4グラムが入ったカプセルを地球に届けました。現在も宇宙飛行を続けており、2026年と2031年にはさらに別の小惑星に到着する予定です。

2023年には、石や砂の初期的な分析が完了し、生命の材料であるアミノ酸が20種類以上、有機物全体では2万種類も見つかりました。また、46億年前の太陽系誕生当初から残っていたとみられる液体の水も見つかり、地球の生命の起源や太陽系の成り立ちの解明に一歩近づき、計画以上の成果を収めることができました。

講演会では、中学受験の失敗や、「自由」を学んだ高校時代、宇宙に携わりたいと思いを強くした友人との出会いなど、中高生時代についても紹介しながら、プロジェクトでの悲喜こもごも、チームで挑んだ挑戦についてお話しします。皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。



### 〈プロフィール〉

2003年東京大学大学院修了 博士（工学）

2003年JAXA宇宙科学研究所助教

2007-2008年、ミシガン大学およびコロラド大学ボルダー校客員研究員

2015年JAXA宇宙科学研究所准教授

2020年 同教授

専門分野は宇宙航行力学、宇宙機システム、太陽系探査。

世界初の「キューブサット」型超小型衛星の開発、「M-Vロケット」の開発、小惑星探査機「はやぶさ」の運用に従事。また、ソーラーセイル宇宙船「イカロス」のサブチームリーダーとして、世界初のソーラーセイル技術の実現へと導いた。小惑星探査機「はやぶさ2」の開発にあたっては、プロジェクトエンジニアとして技術開発を指揮。

2015年より、はやぶさ2のプロジェクトマネジャーとして、小惑星のサンプル採取と地球帰還を成功させた。

著書に「はやぶさ2のプロジェクトマネジャーはなぜ「無駄」を大切にされたのか？」（朝日新聞出版）、「はやぶさ2 最強ミッションの真実」（NHK出版）、「はやぶさ2の宇宙大航海記」（宝島社）がある。